

新春 対談

地域が医療を守る、 医療が地域を守る

医療の最前線でご尽力いただいている公立病院の皆さんと、それぞれの病院の取り組みや健康を通じたまちづくりなどについて、対談を行いました。



府中市民病院
プロジェクトマネージャー
池庄司 和子さん



府中市民病院
院長 多田 敦彦さん



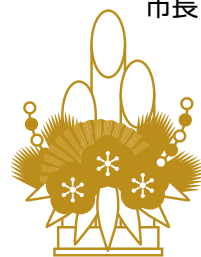
市長 小野 申人



府中市立湯が丘病院
院長 若木 俊夫さん



府中北市民病院
院長 中井 訓治さん



対談は、i-coreFUCHUで
感染対策を実施し行いました。

※敬称は省略しています。

市長 まず、コロナの影響についてお伺いをします。診療面への影響や、職員の皆さんの気苦労も多々あったのではないかと思います。多田院長から、お話を聞かせください。

多田 まず令和2年4月～6月で、外来の患者数が減りました。それから健診を中止し、手術を取り止める、また延期することもありました。入院患者数も減って、大幅な減収となりました。その後はコロナ対策をしながら通常業務に戻す努力を行い、令和2年7月ごろから収益は改善してきている状況です。広島県や府中市よりPCR検査機器の整備をしていただいたことは、非常にありがたかったです。

新型コロナウイルス 感染症の影響

市長 皆さま明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。特にこの2年間はコロナに振り回され、ご苦労も多かったのではないかと思います。また、ワクチン接種にもご協力いただきました。改めてこの場を借りて、皆さまにお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

